

令和 6 年 5 月 6 日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18333

研究課題名(和文) 仁和寺蔵御室版両部曼荼羅の版木と版本に関する総合的研究

研究課題名(英文) A general study of the blocks and the blockprints of the Omuro version of twin mandalas in Ninna-ji

研究代表者

森 雅秀 (Mori, Masahide)

金沢大学・人文学系・教授

研究者番号：90230078

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,700,000円

研究成果の概要(和文)：御室版両部曼荼羅は、明治初年に京都の御室仁和寺の塔頭寺院、皆明寺で開版・刊行された両部曼荼羅の白描図である。金剛界と胎藏界の両部曼荼羅のすべての仏(尊格)が版木に彫られ、その数はおよそ300面を数える。本研究は(1)データ採取と現状の記録、(2)版木と版本の比較研究、(3)版木の制作の背景と関係資料との比較研究、(4)資料の保全と活用の検討という4つの課題のもとで研究を進めた。最終年度には初版本の影印版を刊行し、関係者の利用の便を図った。版面を中心とする画像データを中心に、御室版の概要、成立の背景、諸版の比較考察、各面の詳細な考察等を、できるだけ早く一般書の形で刊行を実現する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

御室版両部曼荼羅は空海がわが国にもたらした請来本の流れをくむ曼荼羅集として、つとに名高い。金剛界と胎藏会の両界曼荼羅の基本的な画像として、研究者はもちろん、一般の人々のあいだにもその画像は広く知られている。仁和寺に残るすべての版面の版木は、曼荼羅の研究資料として第一級の価値を持つ。今回の研究において、版木そのものの詳細な分析と、初版本および複数の再版本の比較考察を実施し、その全体像を明らかにしたことは、日本の曼荼羅研究において画期的な意味を持つ。それに加え、資料の保全と活用までを視野に入れたことで、文化財の保護対策に関しても一定の貢献をなす。

研究成果の概要(英文)：The Omuro version of the twin mandalas (Omurohan-ryobu-mandarashu) is a printed material of the Vajradhatu (Kongokai) and Garubhodbhava (Taizokai) mandalas published at the beginning of the Meiji era. It consists of more than three hundred blocks for printing depicting all the deities of the twin mandalas. This study is proceeded in the following four steps: 1) collecting the image data of the blocks of Omuro version, 2) comparative analysis of the blocks and the several versions of the blockprints, 3) study of the background of the Omuro version, 4) discussion of the preservation and the utilization. The very first version was reproduced in 2024 for the purpose of easy access by the researchers. The full report including all the image data of the blocks, general introduction of the Omuro version, discussion of the production, comparative studies of the blocks and several versions, will be published in the future.

研究分野：美術史 インド学仏教学

キーワード：御室版 版木 印刷技術 仁和寺 階明寺 曼荼羅 密教画像

## 1. 研究開始当初の背景

(1)2018年5月に京都の仁和寺より同寺が所蔵する御室版について調査依頼があり、現存する版木の予備調査を実施した。御室版は日本密教の曼荼羅研究における基本的資料として密教の基本的文献でもその図像が多く用いられているにもかかわらず、版木そのものについての研究はほとんどなされていなかった。予備調査において、御室版の版木が完備していること、その学術的意義を学界で共有すべきこと、さらに、すみやかに保全の対策が講じられるべきであるという認識で、仁和寺の学術スタッフと一致した。これを受けて、金沢大学と仁和寺との協力体制のもと、総合的な調査・研究に着手するに至った。

(2)版木の調査を実施する過程で、これまでに刊行された版本の研究も必要であることがわかり、初版本の現存状況の調査を行った。東京大学と京都大学に初版本がそれぞれ2セットずつ保存されていることが判明し、これらについても予備調査を実施した。その結果、現在の版木の版面と初版本のあいだには一致しない点が多く見られ、初版は版木が未完成の状態で刊行されたことが明らかになった。版木と版本の関係は、予想以上に複雑であり、すべての版本について、さらに詳細な調査・分析が必要であるという認識に至った。

(3)御室版の下図を作成した絵仏師たちは、それ以前に仏教図像の粉本の収集と作成に従事し、その作品が近年刊行された。従来、御室版は空海による請来本の両部曼荼羅の図像を忠実に伝えられると言われてきたが、同じ絵師が描いたこれらの作品と比較する環境が整ったことで、請来本に由来する部分と、絵師独自の作風とを峻別することが可能になった。

(4)これらの予備調査の成果を踏まえ、御室版の版木及び版本に関する調査・研究の開始に当たり、挑戦的研究として研究を遂行することが、その内容から最もふさわしいと判断した。

## 2. 研究の目的

(1)御室版両部曼荼羅は、明治2年から3年にかけて京都の御室仁和寺の塔頭寺院、皆明寺で開版・刊行された両部曼荼羅の白描図である。金剛界と胎蔵界の両部曼荼羅のすべての仏(尊格)が版木に彫られ、その数はおよそ300面を数える。これまで数回にわたり、版木から摺られた版本が刊行され、密教図像の基本的な資料として活用されてきた。仁和寺にはこれらすべての版木が保存されているが、版木そのものについて、これまで本格的な調査・研究はまったくなされていない。研究者ですら、その存在を知らない者も多い。本課題は、これらの版木と版本を対象に、密教学や仏教美術史はもちろん、書誌学、出版史、寺院史、文化財学、さらに物質科学、文化財修復学、保存科学などの研究者の協力を得て、多角的・総合的な分析・研究を行う。

## 3. 研究の方法

(1)研究全体は、データ採取と現状の記録、版木と版本の比較研究、版木の制作の背景と関係資料との比較研究、資料の保全と活用の検討、という4つの柱を持つ。

(2)このうち「データ採取と現状の記録」は、仁和寺において版木の現状についての悉皆調査を行う。すべての版木にナンバリングを行い、それぞれの版木の寸法の採取、写真撮影、現状の記述、文字情報の翻刻等を行う。版木の採寸と現状の記述は、全体の規格をはじめ、彫りの状態、左右の添え木(端喰)の形態、描線の特徴、劣化や損傷の状況などについて、版木ごとに可能な限り詳細なデータを集める。これらの情報はデータベース化し、画像や規格などの基本的なデータはホームページ等において速やかに一般に公開する。

(3)「版木と版本の比較研究」は明治3年に摺られた初版本、大正2年に出版された刊行物のもとになった第2版、そして昭和46年に仁和寺で出版された第3版、および非公式に印刷されたその他複数の版本の相互について、版木の版面との比較対照を行う。それによって御室版の成立とその後の経年変化のプロセスをたどる。

(4)「版木の制作の背景と関係資料との比較研究」は御室版の開版にあたって経済的な支援を行った寺院の現地調査、御室版のもととなった神護寺の高雄曼荼羅や、同じ請来本系の高野山の血曼荼羅や当時の甲本、元禄本などとの比較を行う。また御室版の版下製作に携わった絵仏師たちは、幕末、京都の六角堂能満院で仏教図像の蒐集と作画につとめたことが知られ、その作品が京都市立芸術大学に数多く遺されている。これらの仏画が御室版に与えた影響も明らかにする。

(5)「資料の保全と活用の検討」は、300面にも上る版木が制作時から1点も欠けることなく完備しているという、日本の曼荼羅の歴史においても、近世の出版史・印刷史においても希有な例である御室版について、その保全と活用を所蔵元の仁和寺と協議し、御室版の持つ学術的価値を最大限にアピールするとともに、将来にわたって保護・活用する方策を検討する。

#### 4．研究成果

(1)2021年度は、明治3年に摺られた初版本の国内の保存状況の確認と、その現地調査を中心に研究を進めた。具体的には京都大学文学部と東京大学大学院美術史研究室に初版本が所蔵されていることが確認でき、それぞれについての現地調査をおこなった。調査内容は、各ページの摺りの状態の記録と、現在刊行されている出版物との比較が中心である。東京大学本に関しては、所蔵機関の協力の下、すべてのページの写真撮影も実現した。この結果、初版本の出版形態がほぼ解明され、現在刊行されている初版本の出版物には含まれない情報が多数含まれていることが明らかとなった。また、それぞれの版本の入手の経緯についても、調査を進めた。

(2)これらの初版本の調査とは別に、これまで出版の記録が残されていなかった御室版両部曼荼羅の版本を、市中の古書店において発見し、入手した。御室版の出版史の中での位置づけの解明や、他の版との比較研究を現在進めている。

(3)2022年度は、御室版の版木そのもののデータ採取と現状の記録、版木と版本の比較研究を重点的に行った。仁和寺との事前打ち合わせを数回行ったうえで、2023年2月に1週間にわたって仁和寺において御室版の全版木の写真撮影、採寸、現状の記録などを行い、それらのデータと、刊行されている御室版との比較対照を行った。対照とする作品は明治初年に刷られた初版本、大村西崖による大正期の刊本、大正新脩大蔵経図像部本、佐和隆研による簡略本、および未発表の摺本(刊行時期不明)の四本を中心とする。データ採取においては、すべての版木にナンバリングを付し、仁和寺霊宝館の識別番号との対応関係を明らかにし、今後の御室版研究の基礎的な作業も行った。これらの結果、すべての版木の主要なデータは完備され、次の研究の段階に向けて着実な進展が見られた。写真撮影においては、斜光線を用いた立体的な効果を生み出す撮影を試み、版木の特徴がより明瞭になるようつとめた。版木そのものに加え、左右の添え木(端喰)の状態も記録し、当時の印刷技術の実態を示す具体的な情報も収集した。一部の版木の添え木に記載された文字情報も収集し、御室版制作の歴史的背景の解明につながる重要な情報も得られた。

(4)2023年度は、前年度におこなった仁和寺が所蔵する版木と、そこから摺られた複数の版との比較から、版木、初版本、再版本とのあいだの異同が明らかになったことをふまえ、相違点を明確化し、その変化のパターンを明らかにした。その結果、版木が完成した状況を反映する第一段階と、その後の改版の跡を示す第二段階が存在し、それぞれの段階での関係者の意図を

ある程度推測することが可能となった。また、現在、御室版として発表されているいくつかの印刷物のあいだに混乱が見られ、それらを是正したいいわゆる「決定版」の公表が必要であることを確認した。

(5)以上の研究を通して、御室版の版木の学術的意義を今回の研究によって明確にすることができ、所蔵元である仁和寺と、資料の保存と活用について具体的な方針を議論し、すみやかに実施に移すことを検討する段階に入った。そのための基礎資料として、すべての版木の写真データをふくむ本研究の報告書を、可及的速やかに出版する準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森雅秀	4. 巻 21
2. 論文標題 マハーラーシュトラの石窟	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Iconographic Resources Monograph Series	6. 最初と最後の頁 1-383
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森雅秀
2. 発表標題 清凉寺の梅檀瑞像と能「百万」
3. 学会等名 仏教史学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 宮崎 法子、森雅秀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 694
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア	

1. 著者名 木俣元一、近本謙介、森雅秀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 728
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 木俣元一、佐々木重洋、水野千依、森雅秀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 680
3. 書名 聖性の物質性	

1. 著者名 森雅秀	4. 発行年 2024年
2. 出版社 アジア図像集成研究会	5. 総ページ数 320
3. 書名 御室版両部曼荼羅集 [初版本]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------